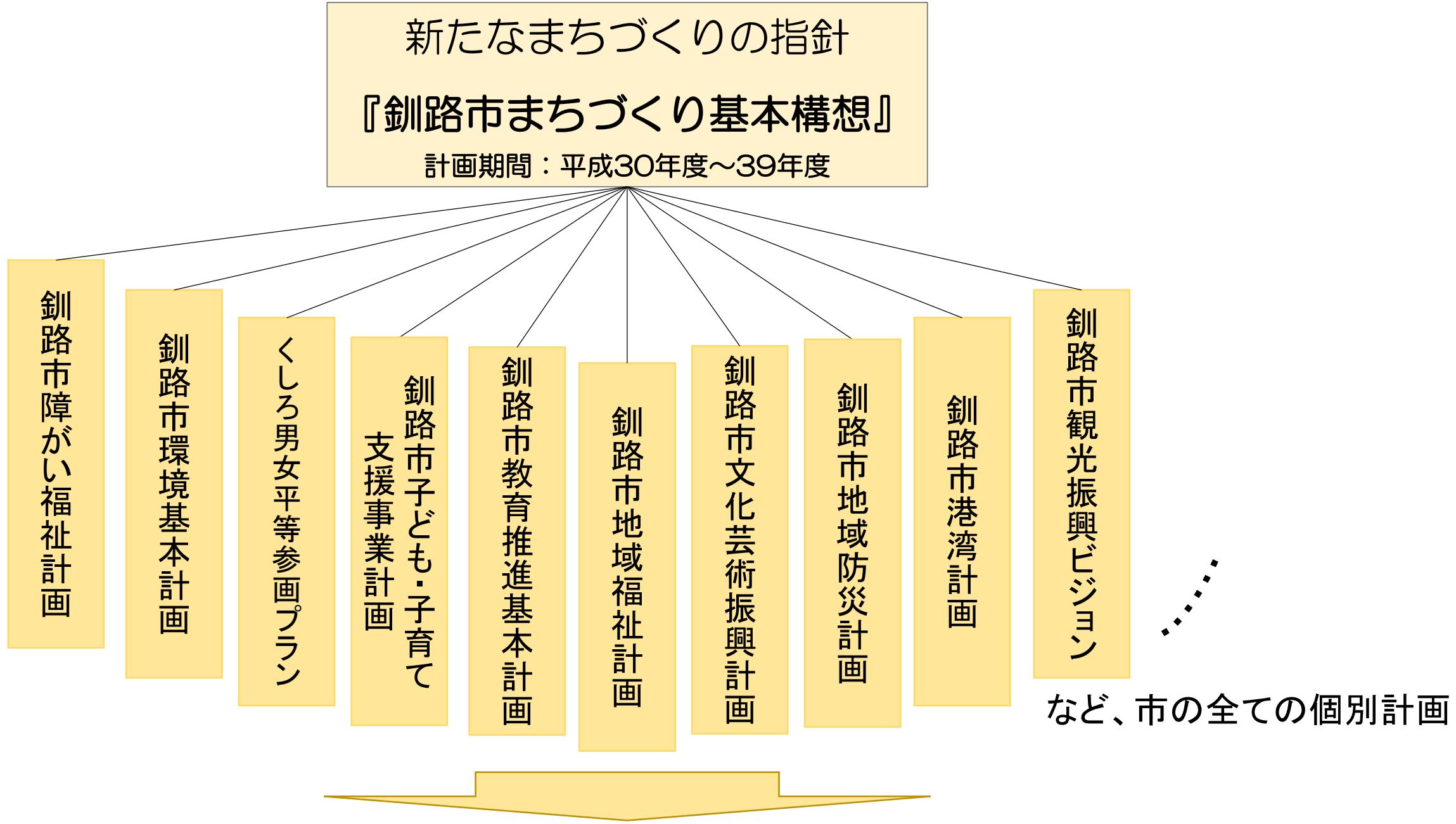


釧路市 まちづくり基本構想

シンポジウム

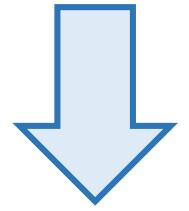
～ つながる まち・ひと・みらい ～

最上位の指針



まちづくり基本条例（H27）

策定根拠



平成30年度スタート
新たなまちづくりの指針

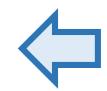
『釧路市まちづくり基本構想』

都市経営戦略プラン
（H24）

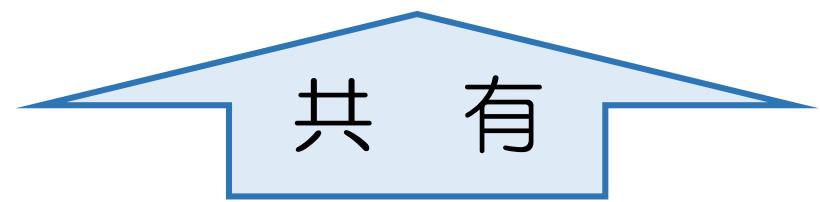


「都市経営」の視点の継承

まち・ひと・しごと
創生総合戦略
（H27）



人口減少に立ち向かう
施策の継続



共有

地域

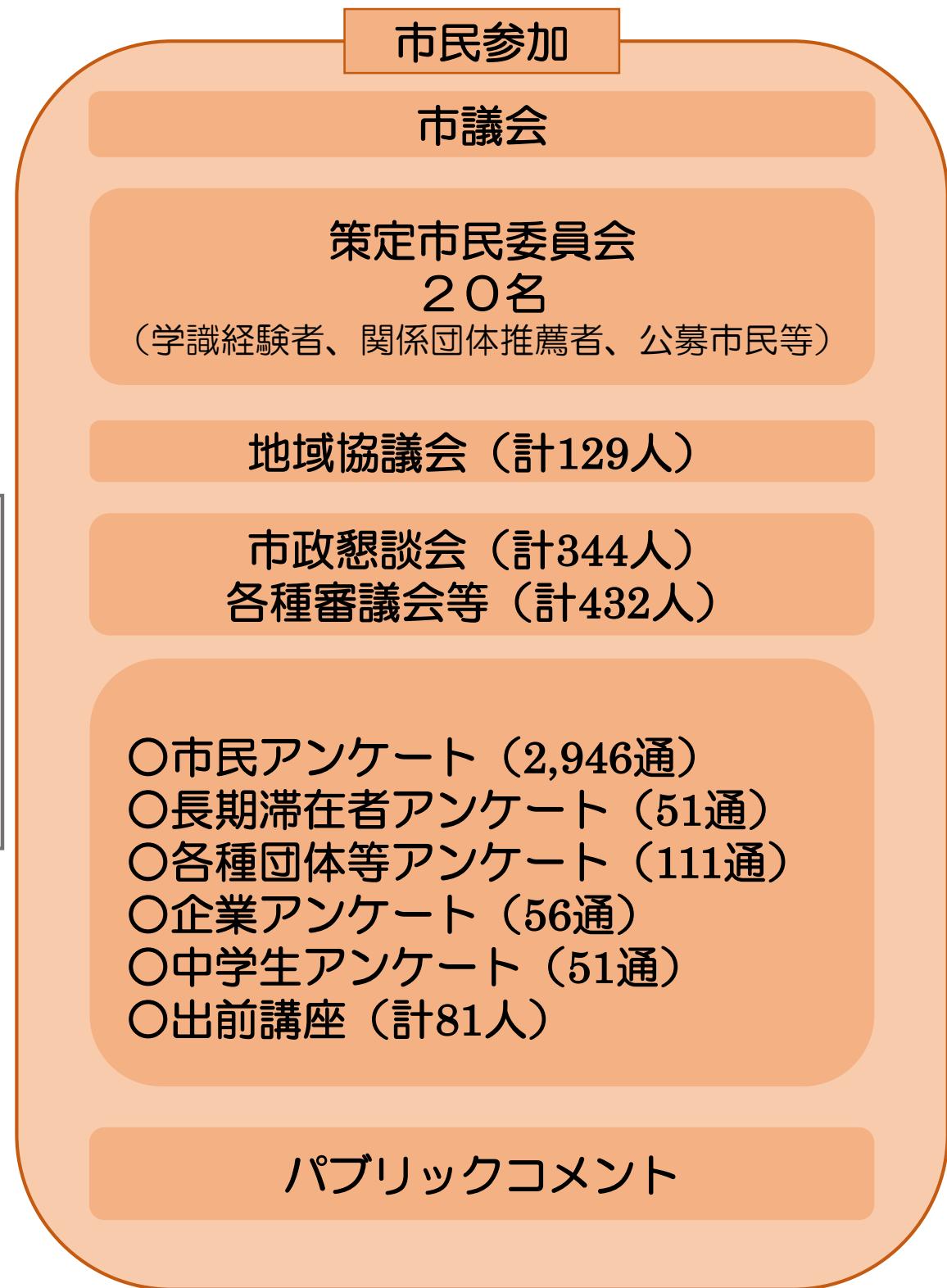
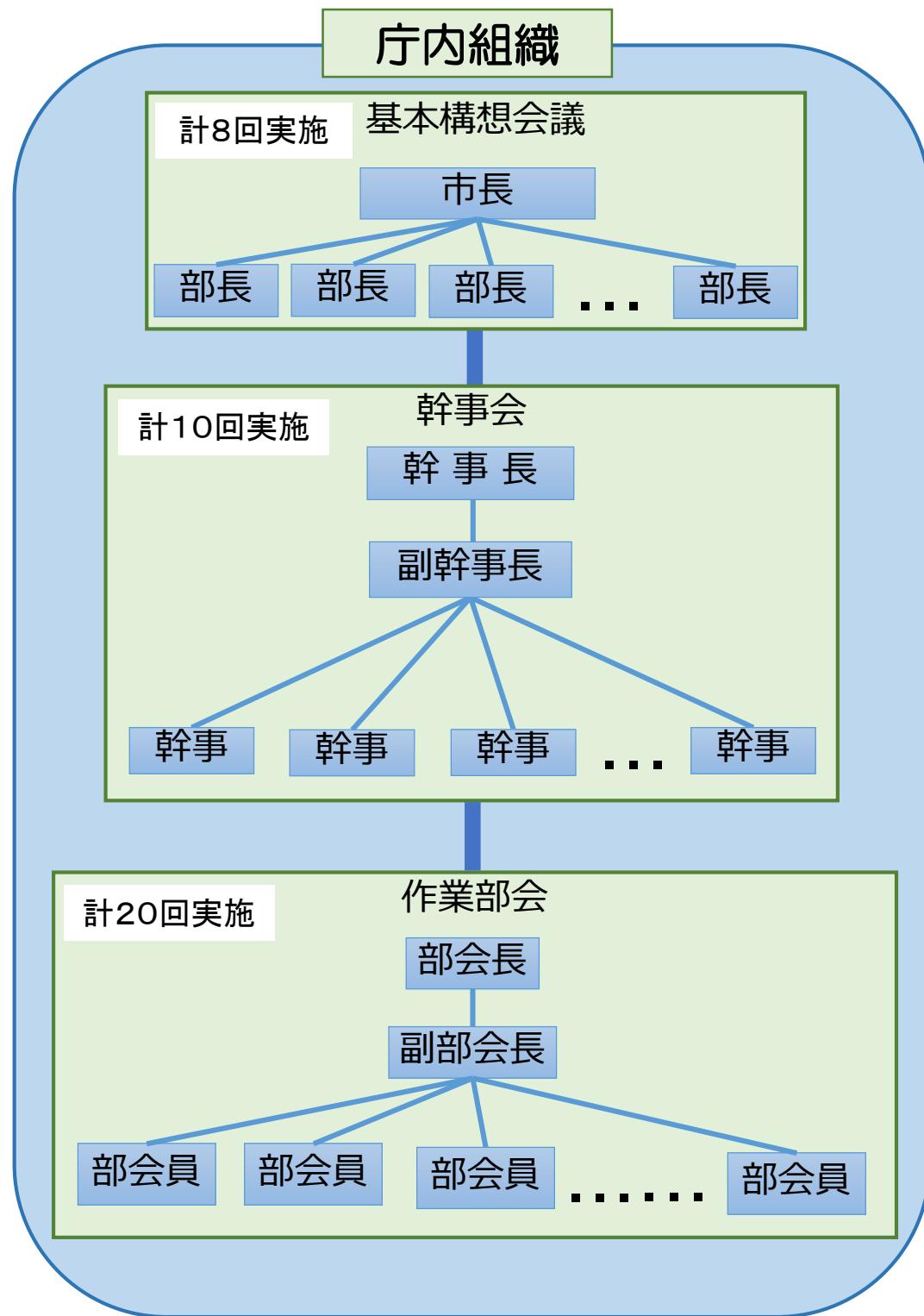
行政

市民、団体、企業など様々な主体が共有する地域の発展へつなげるための指針

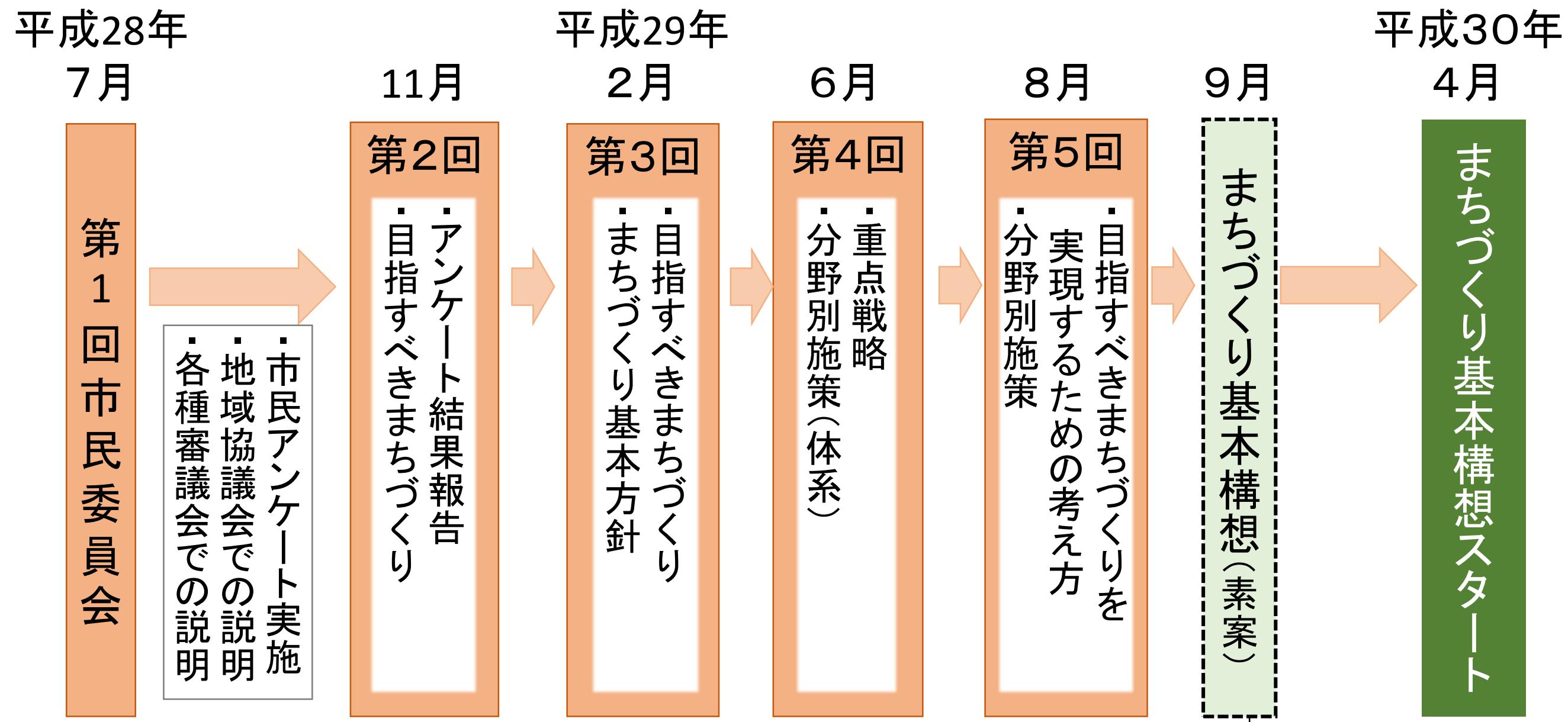
経済、福祉、都市整備、環境、教育など分野別における個別計画や施策の最上位となる指針

ポイント

- ① 市の最上位の指針として策定
- ② まちづくり基本条例に基づく初めての策定
- ③ 市民が主体のまちづくりを目指した策定
- ④ 「都市経営」の視点による初めての策定
- ⑤ 人口減少を見据えた策定

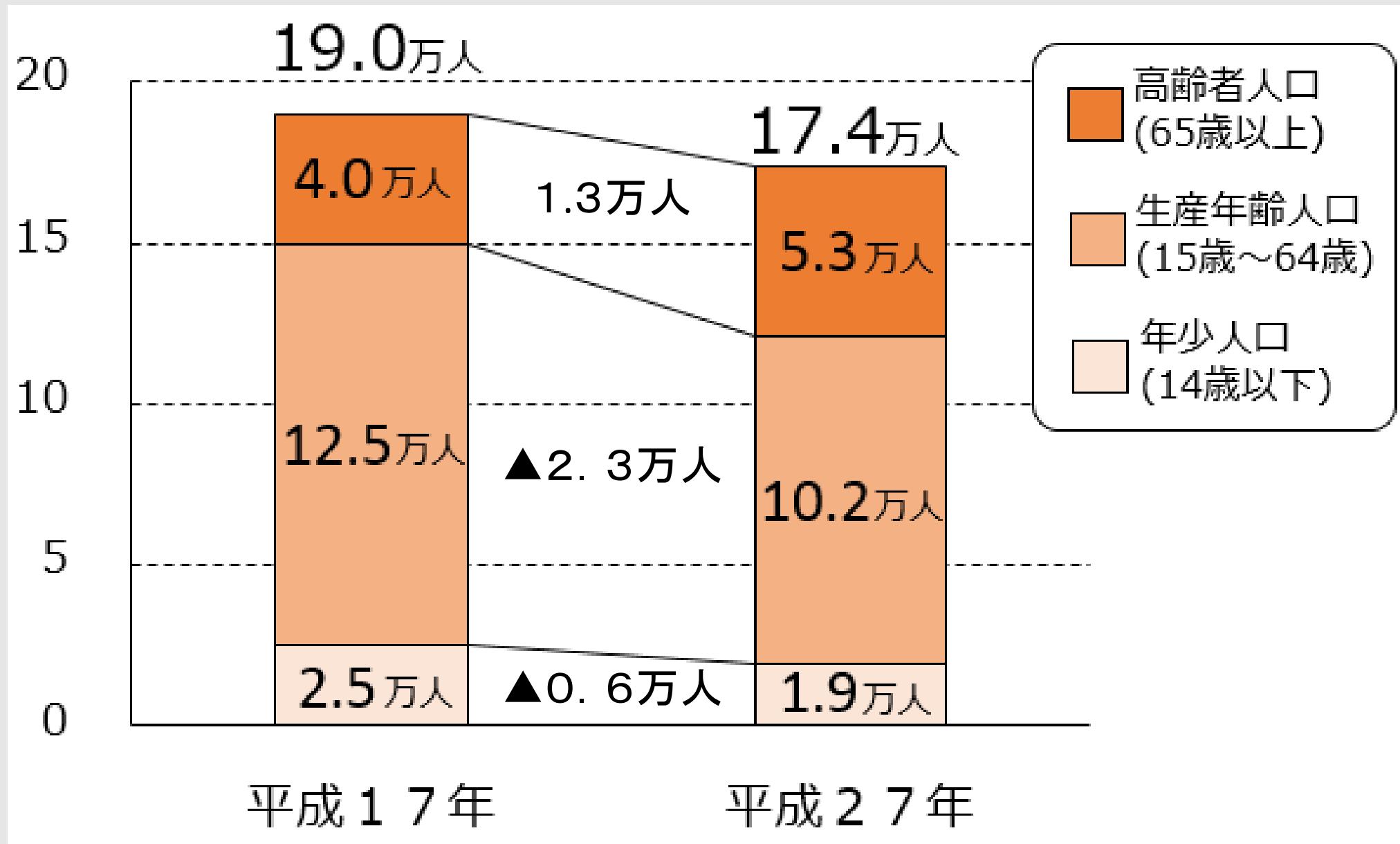


事務局 (都市経営課基本構想担当)



本日は素案に基づいて説明

人口の推移



(資料) 国勢調査 (総務省)

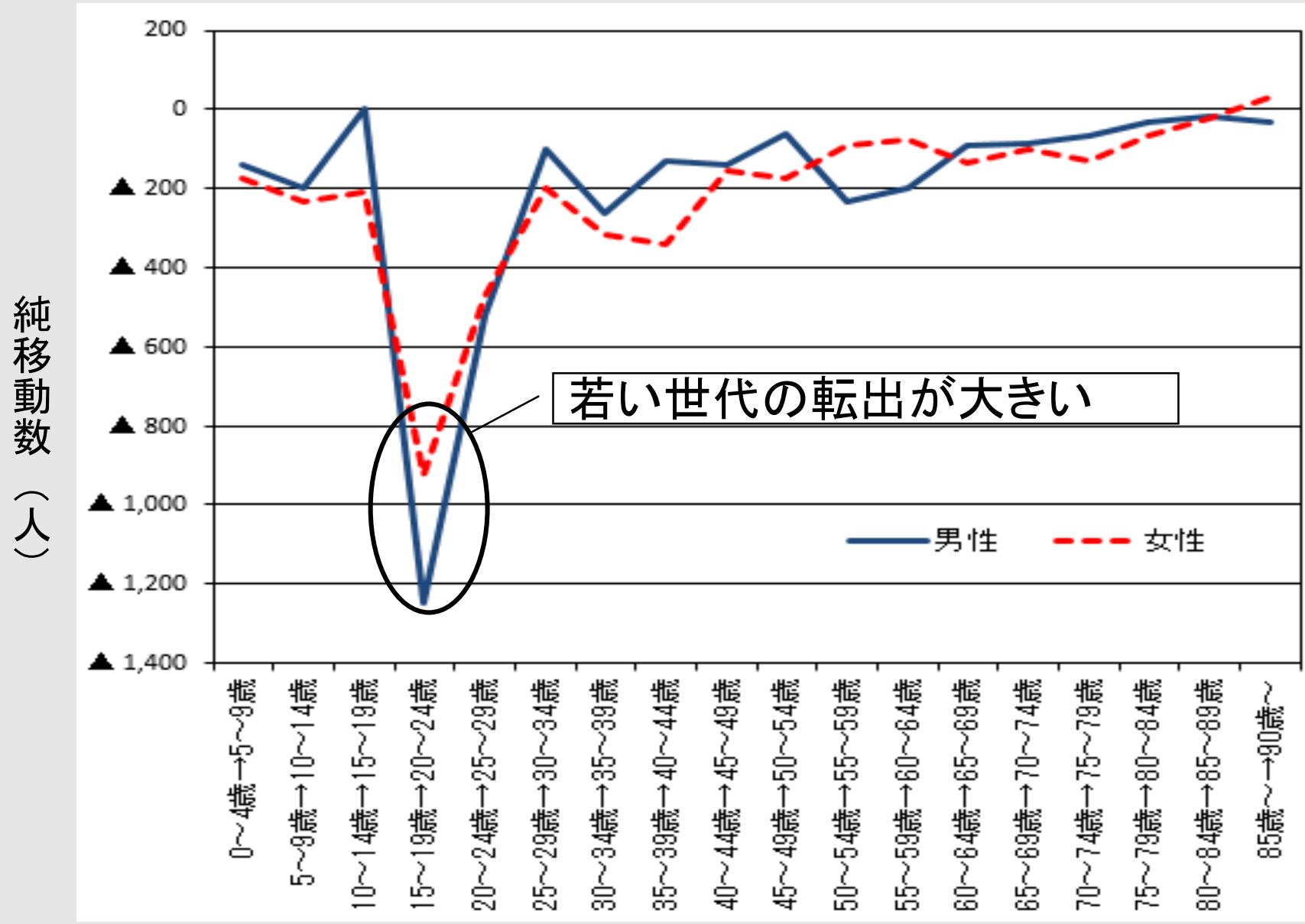
総人口は1.6万人減少

年少・生産年齢人口が減少

高齢者人口が増加

- ・消費行動の低下
- ・生産活動の縮小が懸念
- ・「アクティブシニア」の活躍への期待

平成17年～平成22年の性別・年齢階級別人口移動



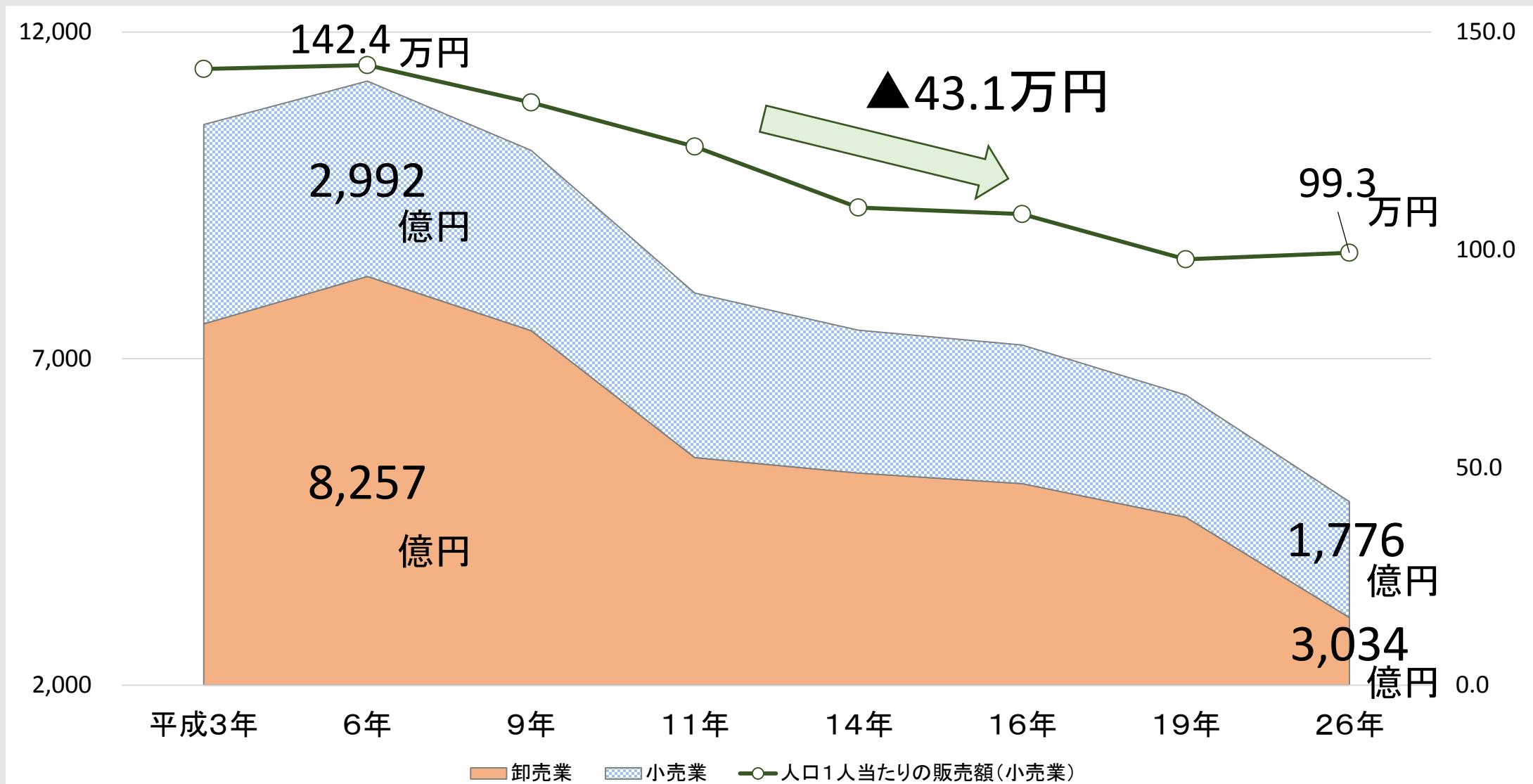
(資料) 国勢調査(総務省)

ほぼ全世代で人口は流出

特に、15～19歳の若者が5年以内に転出する傾向

- ・担い手不足の懸念
- ・次世代を担う若者が「働きたい」「住みたい」「帰ってきたい」希望がかなうまちづくりが重要

年間商品販売額と人口1人当たりの販売額（小売業）の推移



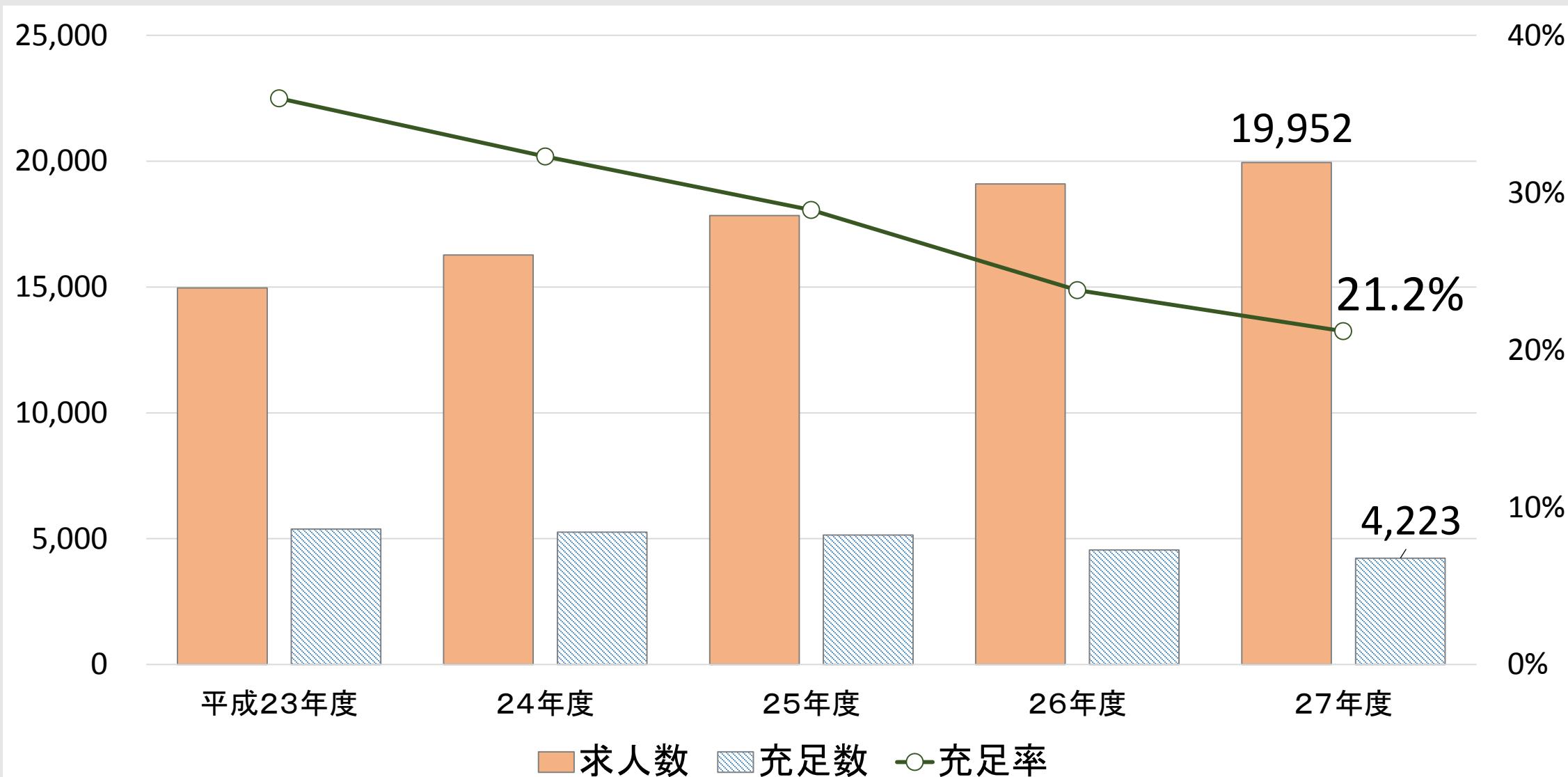
(資料) 商品販売額：商業統計調査（経済産業省）
人口1人当たりの販売額：市都市経営課

平成6年から小売業は40%減少、卸売業は63%減少

1人当たりの年間消費額は平成6年から43.1万円減少

- ・消費行動が低迷
- ・外から稼ぐ力を強め、域外貨を獲得
- ・域内循環を進め、域内に財を蓄える

一般求人・充足状況の推移（釧路管内）



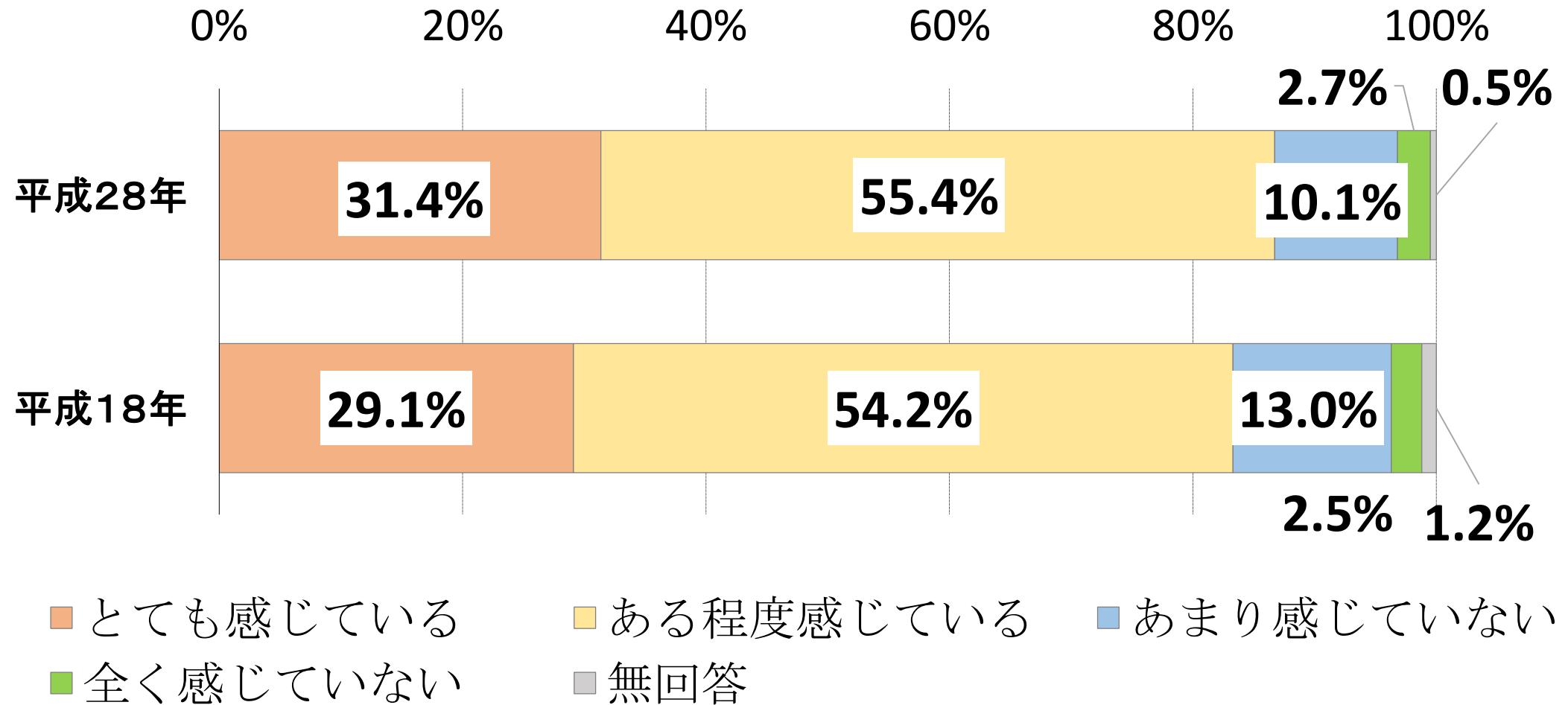
（資料）釧路公共職業安定所（平成27年度）

求人数は増加傾向

充足率は低下傾向

- ・求人数は増加
- ・充足率は低下傾向
（職種、求人条件、求職者のスキルなどの不一致）

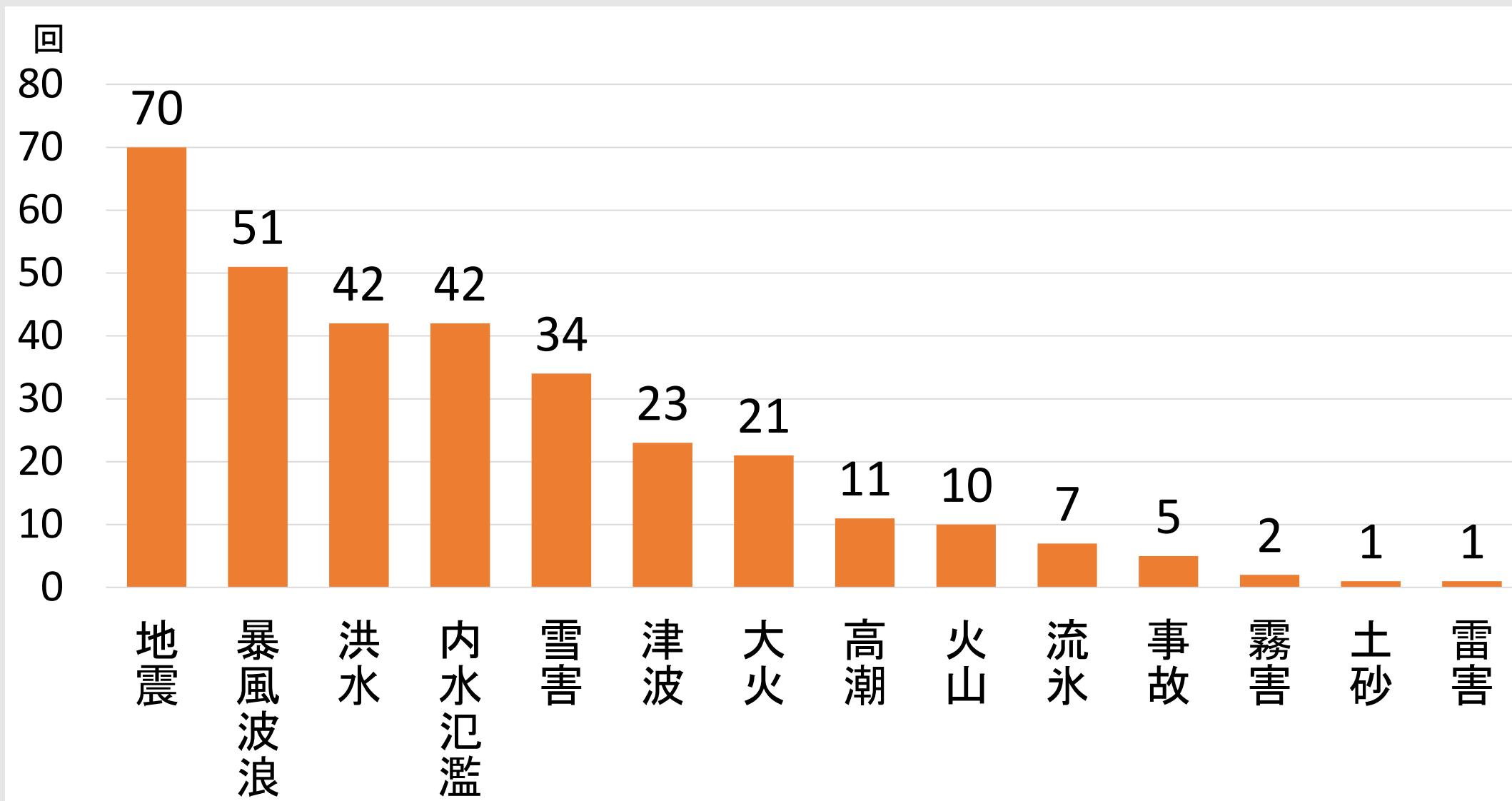
本市への愛着 (市民アンケート結果より)



人口は減少しているが
本市への愛着は増加

・市民が主体のまちづくりを進めるため、
この潜在力を生かすことが重要

過去130年間の主な災害



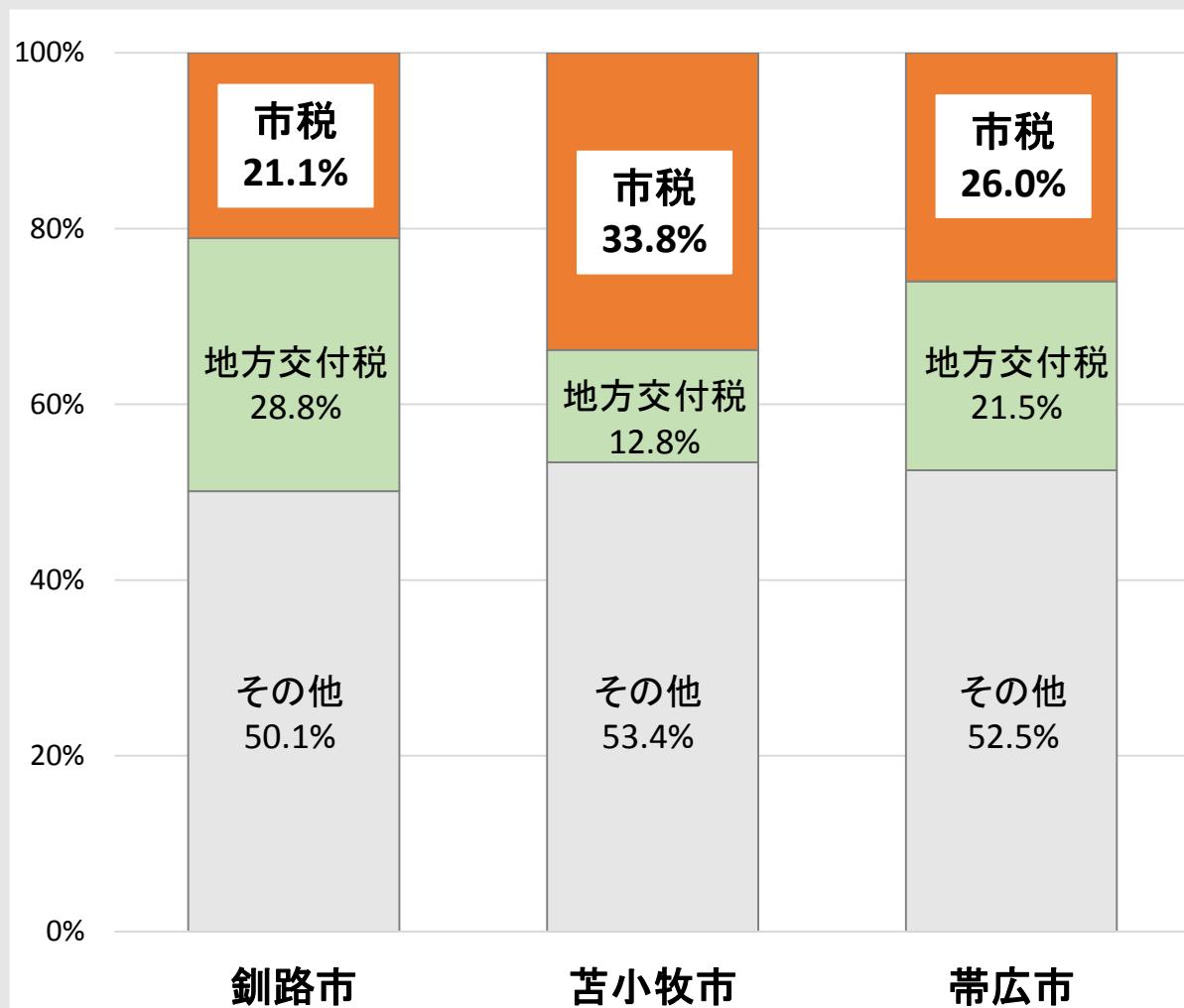
(資料) 市防災危機管理課

地域特性として、地震や火山など災害の種類も多い

過去130年では災害の種別は地震が最も多い

- ・自然災害に強く、しなやかなまちづくり(ハード・ソフト両面からの取組が重要)

歳入に占める市税・地方交付税の割合 (平成27年度決算)



(資料) 市都市経営課

個人市民税の推移（決算額）



(資料) 市都市経営課

法人市民税の推移（決算額）



(資料) 市都市経営課

市の自主財源である
市税の割合が低い

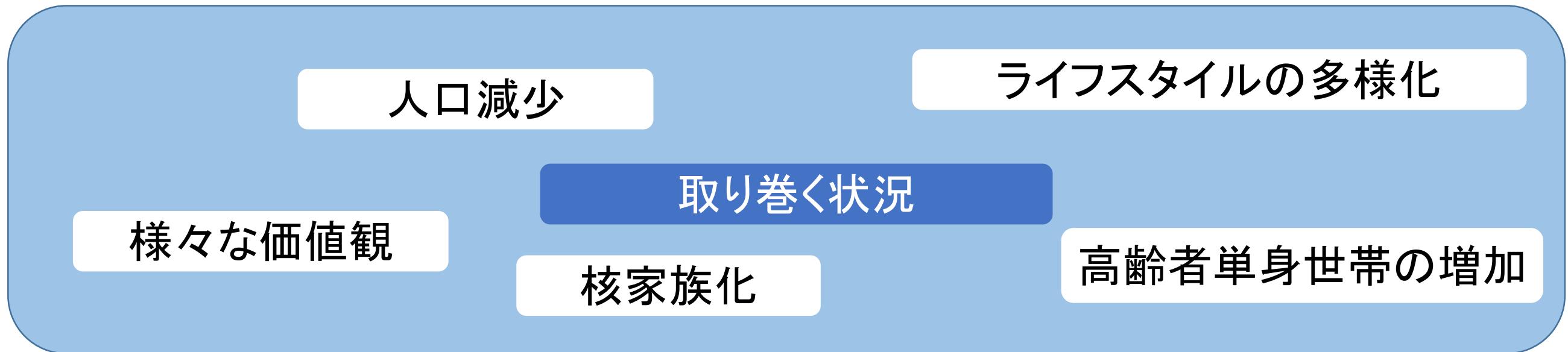
- ・市税を中心とする自主財源の確保
- ・歳入に応じた歳出を目指す
(市民ニーズを把握、分析しつつ行政サービスを検討)

目指すべきまちづくり

- 市民の誰もが健康で安全に安心して、生まれ、育ち、生きがいをもって暮らし続けられるとともに、若者が地域の未来に希望を描き、その希望を地域一体で支え実現できるひとにやさしくあたたかいまち
- 生産都市としてこれまで培ってきた強みを十分に発揮し、たくましい産業の基盤を築き、地域の経済を伸ばして、活力を高めていくまち
- 阿寒湖や釧路湿原をはじめとした豊かな自然環境や多様な文化、ひがし北海道の拠点としての地域の魅力や価値をさらに高め、次世代に継承していくまち
- 社会情勢の変化にすばやく対応し、限られた地域の資源を柔軟かつ重点的に投資する「都市経営」の視点に基づき、さらなる飛躍を目指すまち

これらの課題に対応し、市民の満足度を高めるための将来像として…





➡ 人と人のつながりは希薄になりがち...

でも...



例えば、災害時には、住民同士で助け合うことが重要

今こそ！

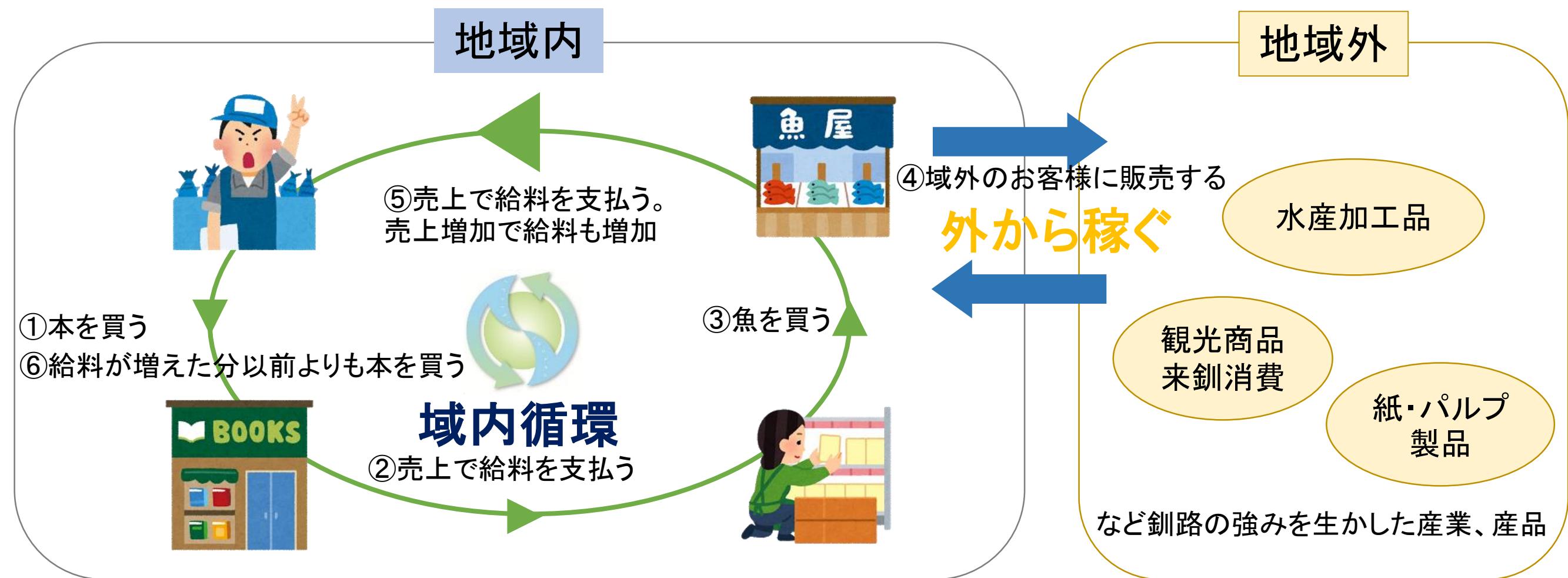


地域内のつながりを再認識し、構築すべき時



しかし...

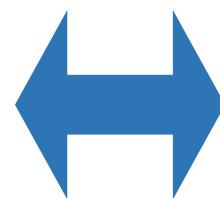
人と人のつながりは、何も無いところに突然築かれるものではありません。



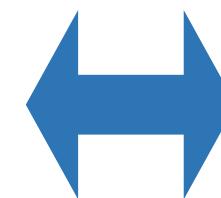
※ イメージ図内の業種や取り組みは一例であり、様々な可能性があることに留意が必要です。

外から稼いだ財を域内循環で逃さない！

域内循環は、地域から財を逃がさないという目的に向かって行動。



地元消費者・企業などの声を商品づくりに生かすことで、受注する地元企業の商品や技術を向上させ、地域の企業、技術、人材のつながりを強化。



地域のつながりが強まることで、域内循環の推進と外から稼ぐ力を醸成。

そこで、基本構想では・・・

同じ課題や目的に取り組むなど、日常的な活動の中からつながりや信頼関係を築くことを目指します。

基本構想では・・・

同じ課題や目的に取り組むなど、日常的な活動の中からつながりや信頼関係を築くことを目指します。

この考え方を「**域内連関**」と名付け、
市の最上位の指針である基本構想に位置付けます。



域内連関は、持続可能な「みらい」にむけて、
「まち」「ひと」のつながりを強め、
地域の力を結集するための理念



地域のつながりや信頼関係は一層強まり、
観光産業や地域のコミュニティ、防災、福祉など
様々な分野に大きな力を発揮

【域内連関のイメージ】

確認

【域内連関の仕組み】

テーマを共有し、共に行動



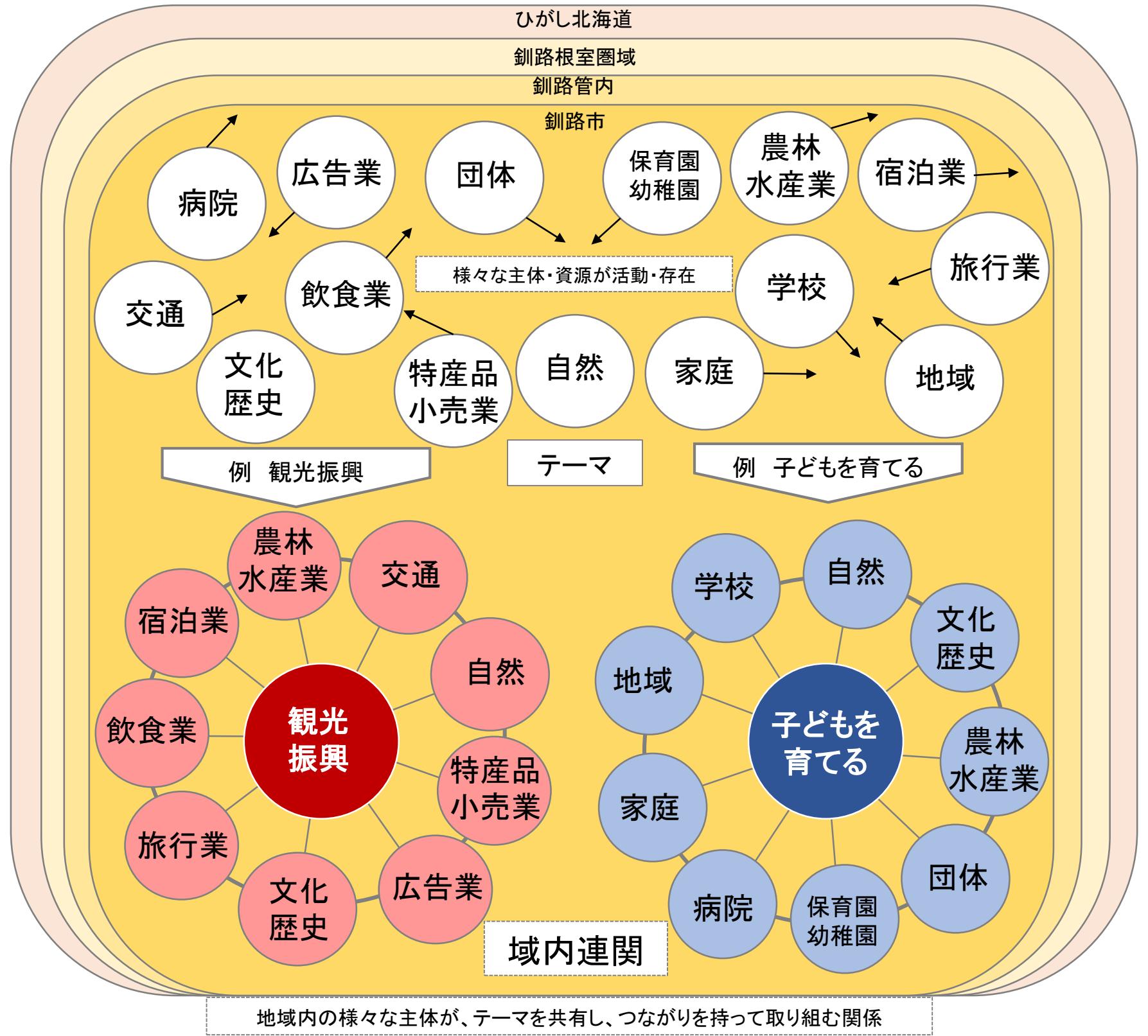
地域のつながり、信頼関係の強化



災害や社会、経済の変化に立ち向かうための力が生まれる



持続可能な地域社会へ



地域内の様々な主体が、テーマを共有し、つながりを持って取り組む関係

域内連関のイメージ

【域内連関の仕組み】

テーマを共有し、共に行動



地域のつながり、信頼関係の強化

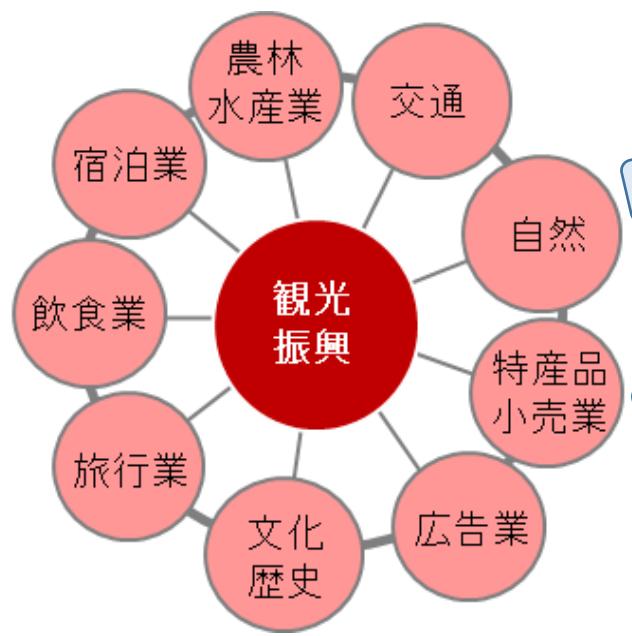


災害や社会、経済の変化に立ち向かうための力が生まれる



持続可能な地域社会へ

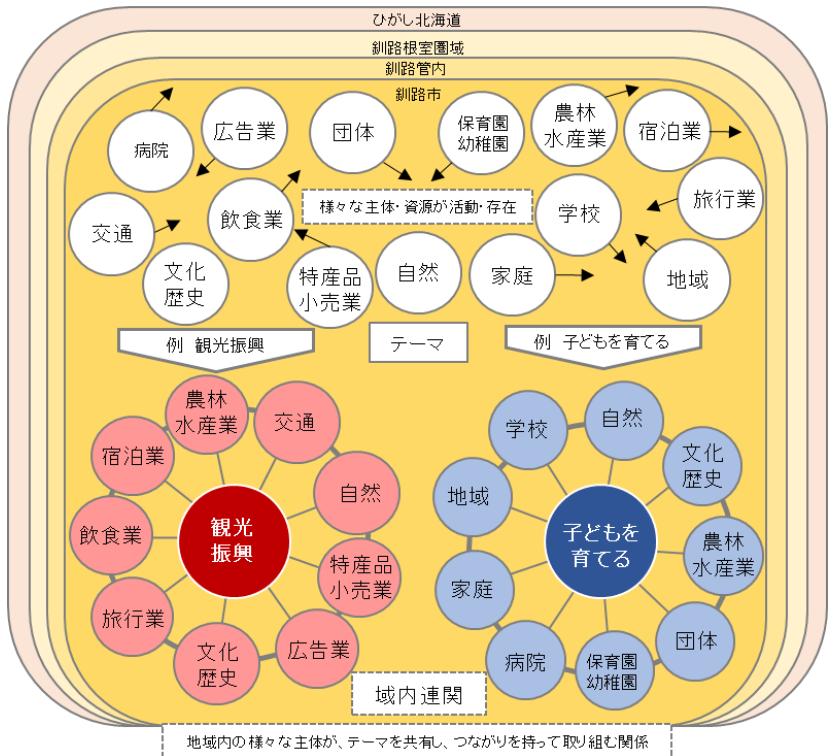
観光振興に取り組むテーマにおいては・・・



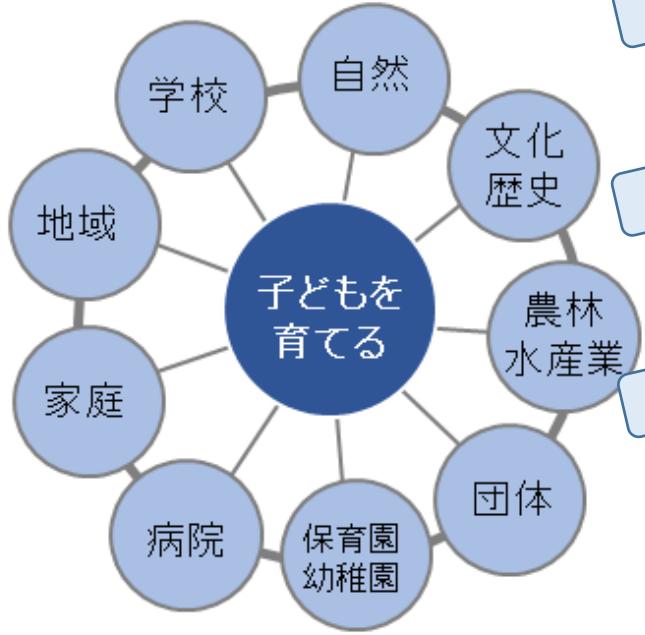
共有
観光振興により
地域経済を活性化する

行動
様々な主体が連関するとともに、
地域資源を活用

効果
裾野の広い観光産業を実現し、
外から稼いだ財を地域で循環



子どもを育てるテーマにおいては・・・



共有
未来を担う子どもを育てる

行動
出生から自立までを見据えて、
様々な主体が連関

効果
地域一体で担い手を育成すること
で地域への愛着も醸成



まちづくり基本方針

基本方針1 未来を担う子どもを育てるまちづくり

基本方針2 すべてのひとが活躍できるまちづくり

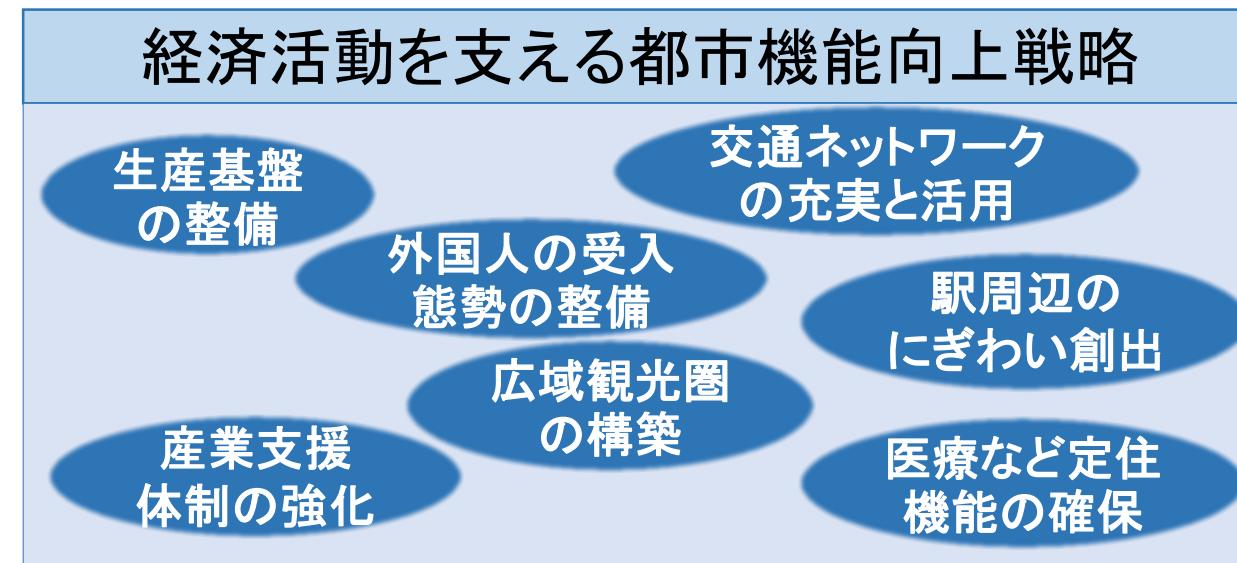
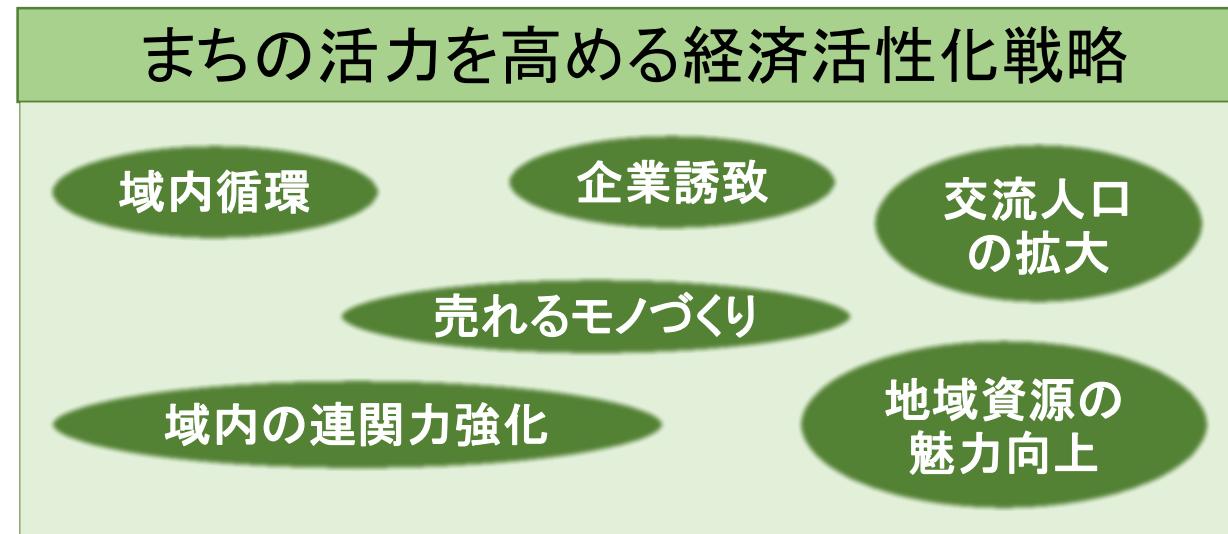
基本方針3 地域の経済と産業が雇用を支えるまちづくり

基本方針4 誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり

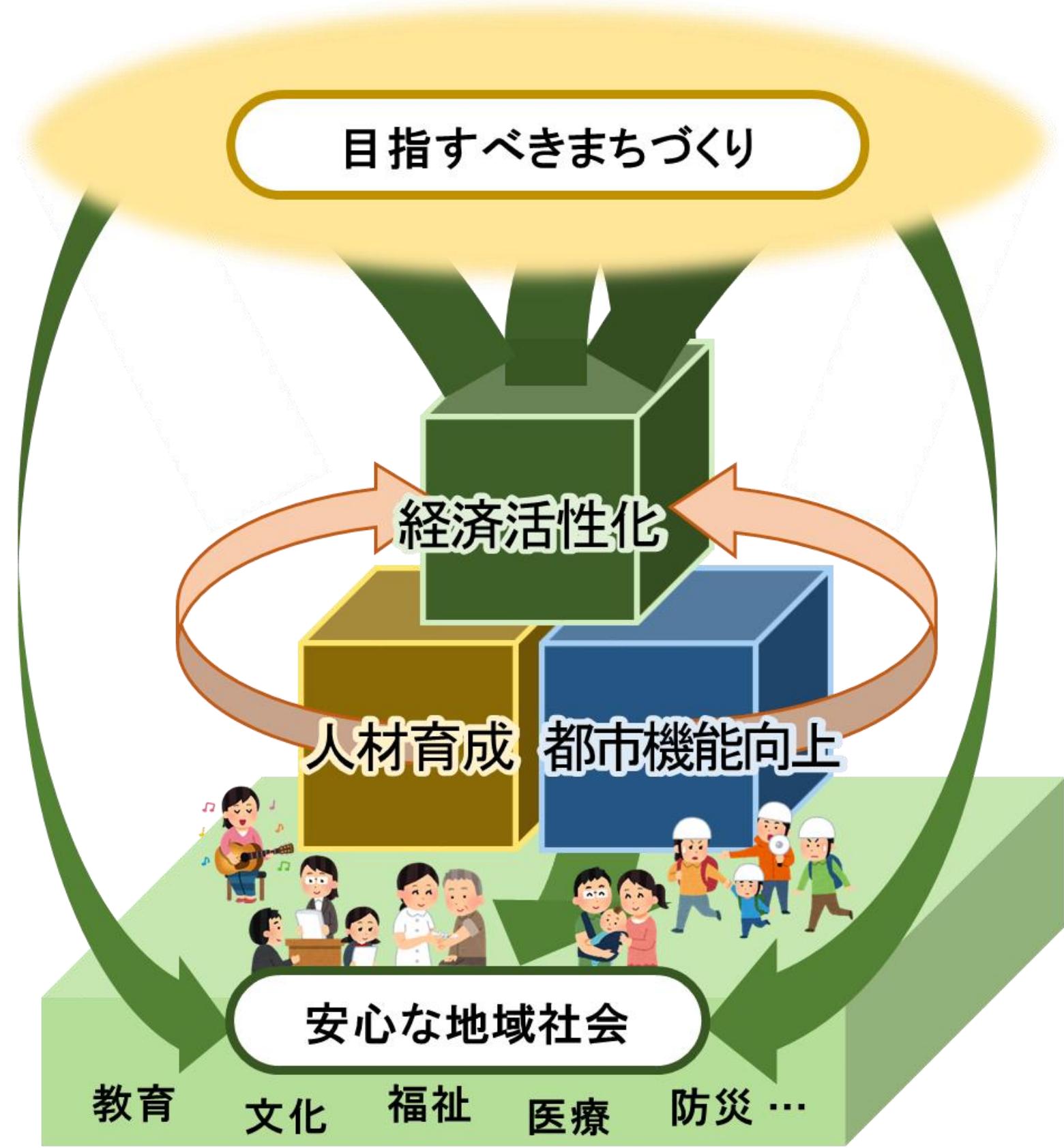
基本方針5 自然と都市とが調和した持続可能なまちづくり

まちづくり基本構想では、安心な地域社会の構築に取り組みつつ、今後10年間に重点的に取り組む政策を重点戦略として定めています。

【重点戦略の概要】



【重点戦略のイメージ】

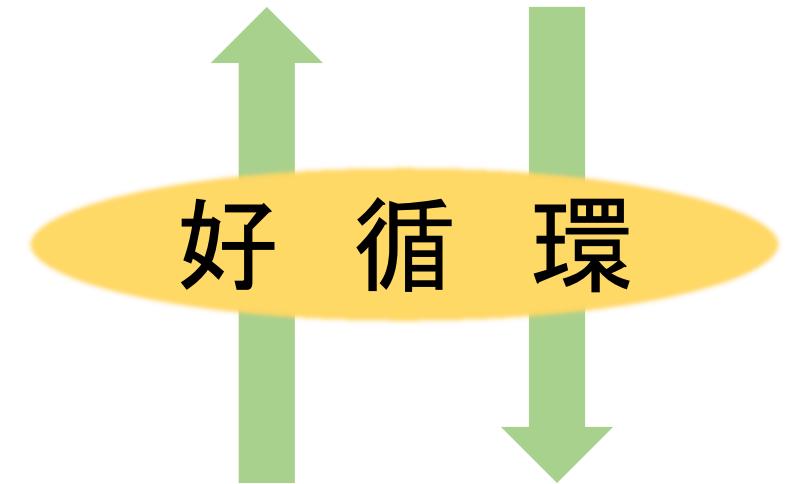


経済活性化を主軸とした
3つの重点戦略

雇用確保 所得増加

まちの活力

経済活性化の効果



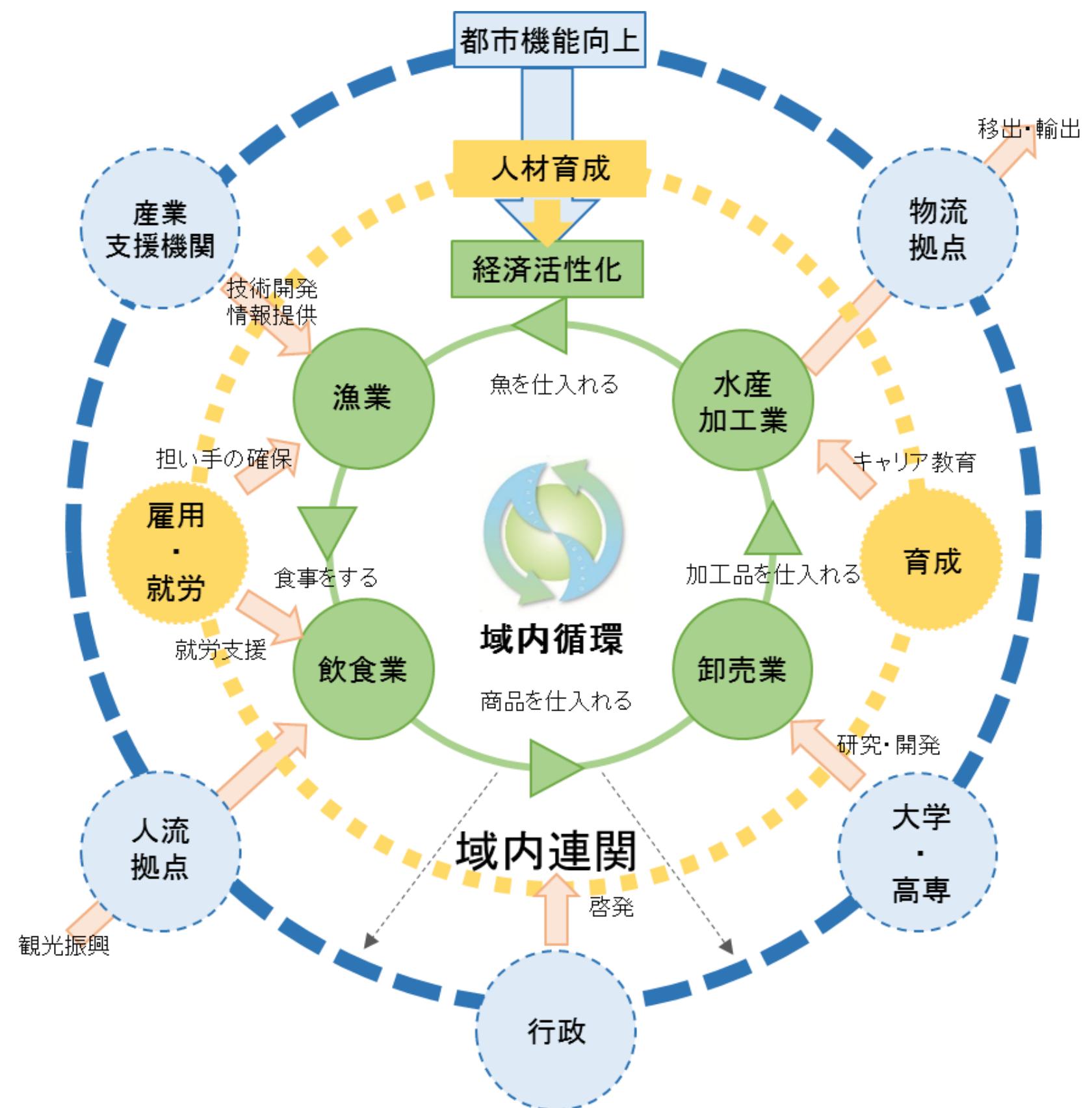
安心な地域社会

市民が生まれ、育ち、生きがいを持って暮らすための基盤となる安心な地域社会の構築

重点戦略における域内連関のイメージ

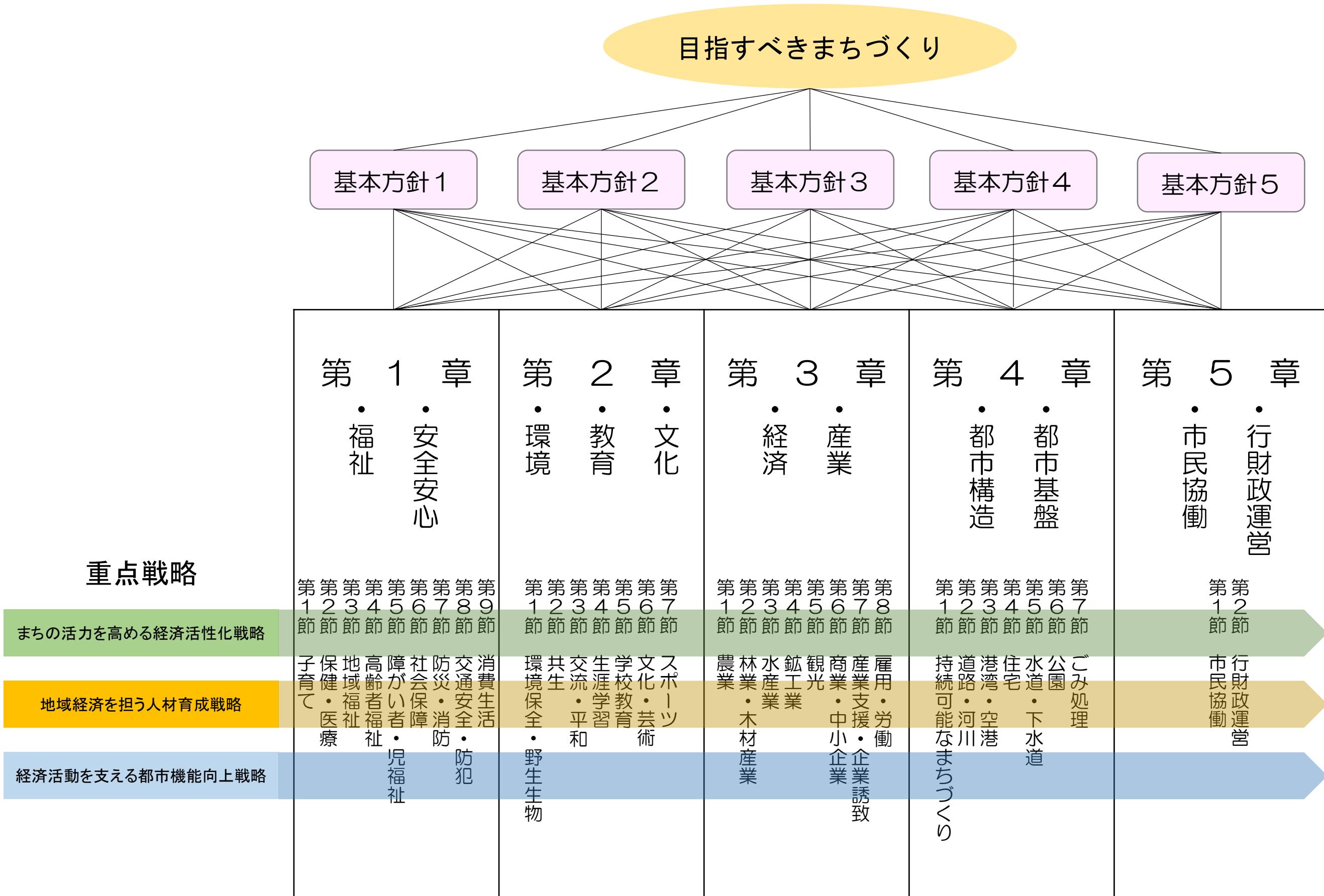
重点戦略のポイント

- ①分野横断的な施策
- ②3つの戦略が連関



※ イメージ図内の業種や取り組みは一例であり、様々な可能性があることに留意が必要です。

目指すべきまちづくり、基本方針に基づいて取り組む、各分野の施策展開を示しています。



人口が減少するなかで、
社会や経済の変化する速度は増し、
将来を見通すことが難しい時代
だからこそ、幅広い視点と意思をもってまちづくりを
考えることが必要です。

市民・企業・団体・市役所など
様々な主体がまちづくりの方針を共有し、

まち・ひとのつながりによって、

持続可能なみらいを目指すため、

「釧路市まちづくり基本構想」を策定いたします。